

## SHIMZ NEXT 事務局インタビュー

「建設業の強みを生かしたグローバルな事業育成を恒常化させる取り組み」



「清水建設アクセラレータープログラム」(以降、SHIMZ NEXT) を推進し、本プログラムを統括する環境エネルギー・BLC 推進部長の笠井一徳さん、事務局のリーダーとして同部でカーボンニュートラル・エネルギー新技術推進グループ長を務める加藤大輔さんが語る、始動に至った経緯や目指しているビジョン、特色とは何だろうか。

2016年、カーボンニュートラル関連のイノベーションへの注目が世界的に高まるなか、ロンドンのコーポレート企画室駐在員事務所長として赴任した加藤さん。先端的な技術を扱うスタートアップが起点となってESGの視点でオープンイノベーションの事業創造を推し進める気運の高まりを感じ、競争が激化する建設業界の中で顧客ニーズにより早く対応していく可能性を探ることができるのではないかと考え、現地のスタートアップとのコミュニケーションに注力していった。



加藤さん（以下、加藤）

3年半の在任期間中にグローバルな協業事案を創出する動きをし、これらの経験から特に痛感したのは、新たな価値創造に自社だけで取り組む場合にはどうしても時間的な制約があるということでした。建設業のお客様のニーズは近年多様化し、デジタル×建設、エネルギー×建設といった掛け算の提案が必要になっていると感じます。デジタルやエネルギーの先端領域の技術開発は、建設会社より専門的に取り組む外部イノベーターによって先行して進められているため、顧客ニーズにタイムリーに提供するには彼らと協業させていただくのが非常に効率的であることを実感しました。

そして帰国後、当社でもコーポレートベンチャーキャピタル（CVC）の投資枠や、豊洲スマートシティなどの共創プロジェクトが始まり、「スタートアップとの協業によって進める技術開発を増やしていくことで当社の新たな展開を生み出すことができるのではないか」という考えへの確信が深まり、今回のアクセラレータープログラムを提案するに至りました。当社の持っている建設・土木の技術、ノウハウ等のアセットに、スタートアップの先端テクノロジーやビジネスモデルを掛け合わせることで、1+1 が 2 になる以上の価値を生み出し、当社が提供できる範囲から一歩飛びぬけたアイデアが膨らんでいく可能性が大きいと考えています。

笠井さん（以下、笠井）

手前味噌ですが、当社の人財は幅広く優秀な者も多く、今までの新技術開発などでは、まずは社内人財で進めることが多かったかと思います。しかし、それでは時間を要することも多く、近年のカーボンニュートラルに向けた取組みなどの、急激な社会ニーズの変化スピードに合わせられなくなって来ていると感じていました。

そのようなタイミングで、加藤さんから、このアクセラレータープログラムでのスタートアップとの協働をすることで、新しい技術や事業を育てて行くことの提案を受けました。まさにこれだと(笑)。その後、上職を含む関係者と議論をするなかで、イベントとして取り組むのではなく、恒常的な仕組みにするべきだという結論に至りました。当社がお客様に提案するためのシーズを増やす活動を常に行っている。また、一度手掛けたものは、最終的な結論が出るまでは育んでいく。今回のアクセラレータープログラムそのような、恒久的な仕組みにしたいと思います。



加藤

今後アクセラレータープログラムで実証していく事業の中には、うまくいかないものも出てくると想定していますが、一連の活動から、そういったものを取捨選択するメソッドを確立したいと考えています。また、顧客や社会のニーズに応えられるようにするために、すぐに実行に移せる事業の種をいくつも会社として持っておくべきだと考えています。

## 「つくろう、その先へ。」をビジョンに

本プログラムが目指すビジョンとして「つくろう、その先へ ～建築からの、新しい価値創造～」という言葉にはどのような思いが込められているのだろうか。

棚橋さん（以下、棚橋）

SHIMZ NEXT のビジョンには、建設業としての役割を踏まえながら、保有する多様なアセットと新技術の掛け合わせから生まれるイノベーションの重要性に加え、そこに宿るモノづくり本来のワクワク感を伝え、それに共感してくれるパートナーと共に、事業化に取り組んでいきたいという気持ちを表現しました。

「つくろう、その先へ。」という言葉には、未来へ向かって進んでいくというイメージを載せ、多様化するお客様と社会のニーズに外部イノベーターの方々と共に対応していきたいという想いを皆で込めました。

## 刻々と変化する社会ニーズに応えるための7つのテーマ

これまでの部署ごとの取り組みではなく、恒常的に顧客ニーズに応えるための活動として、本プログラムでは、「建設・まちづくり」「レジリエンス」「環境・エネルギー」という大枠の 카테고리をもとに、以下の7つのテーマで募集が行われる。

CONSTRUCTION & CITY PLANNING 建設・まちづくり			RESILIENCE レジリエンス	ENVIRONMENT & ENERGY 環境・エネルギー		
①建設プロセス	②次世代の建物	③スマートシティ	④レジリエンス	⑤エネルギー	⑥脱炭素化	⑦資源循環
新たな建設業のあり方	多様な働き方・暮らし方に対応する空間	都市の暮らし方を支えるサービス	災害リスクに柔軟に対応する建物・都市	建物・都市に実装する新エネルギー	建設～建物運用プロセスの脱炭素化	資材調達～解体の施設サイクルにわたる資源循環
CASE ・建設DX(建築・土木) ・モジュール建設	CASE ・不動産DX ・デジタルツイン ・新しい働き方	CASE ・コミュニティ連携 ・人流解析 ・モビリティ活用方法	CASE ・防災、減災、災害予測 セキュリティ ・BCP対策	CASE ・省、再、創エネ ・蓄エネ ・エネルギーマネージメント(VPP等) ・V2X	CASE ・現場、建物における ・CO2排出削減 ・CCS/CCUS DACカーボンクレジット ・革新的な素材	CASE ・サステナビリティ ・トレーサビリティ ・循環型サプライチェーンの構築

加藤

提供できる協業可能アセットは、当社が保有し、賃貸運営を行っている不動産等が挙げられます。具体的には、当社の組織が部門横断的に創り上げた豊洲スマートスマートシティの一部や 2023 年秋オープン予定の潮見イノベーションセンターなどあり、そのほかにも、800カ所以上稼働している全国の施工現場や 218 年の歴史のなかで培ってきた顧客網などが実証の検討対象となります。

笠井

テーマは 7 つ提示していますが、違うテーマの応募でも全く構いません。最終的に当初の構想とは違ったものができあがってもいいと考えています。

## グローバルな視点で、単発で終わらせない事業創出の仕組みを検討

他とは異なる、応募者に打ち出したい協業メリットとは何か。

加藤

SHIMZ NEXT では、是非グローバルの先端技術を取り込めるような仕組みを創っていきたいと思っております。私は、海外の技術開発は国内の 5 年先を行っていると感じており、海外のイノベーターを取り込むことで厳しい環境下にある建設業の競争を打ち破るカギとなると考えています。

その他のメリットとしては、2 月末に東京国際フォーラムで開催される「City Tech.Tokyo」への共同出展等があります。

また、当社が持つ CVC の投資枠の活用や JV の検討など、単発の実証に終わらせない様々

な共創関係を検討できる可能性があります。

棚橋

また、事務局のメンバーが所属する部署も多岐に渡っているため、さまざまな視点から事業検討できると考えております。思いのあるメンバーが部門を問わず連携し、一つの事業を全社の知見を元に導いていく体制を整えることで、社内外での動きを活発化させていきたいと考えています。

スタートアップとともにゼネコンの枠にとらわれない事業を創出、

スピード感を持って育成する活動を目指して

SHIMZ NEXT では、部門横断的にメンバーが関わっているが、それぞれの担当分野からみた、外部との協業に対する期待や意識しているポイントは何だろうか。



室屋さん（以降、室屋）

私は「街づくり推進室」という部署でお客様に対して街づくりに関するご提案をしているのですが、お客様と接するなかで、お客様のニーズや当社に期待されている提案が変わってきているのを感じています。変化のスピードは日に日に加速しており、当社だけでその変化に対応するのは難しいため、外部イノベーターの方々の力をお借りして、変化にスピーディに対応していきたいです。

黒川さん（以下、黒川）

私は、営業総本部の「街づくり推進室」に所属しております。スタートアップ企業などと共同でまちづくり提案をさせていただくことはありますが、どうしてもその個別提案ごとに留まりがちで、継続した連携に落とし込めていない現状があります。

本プログラムでは、今までにない価値を一緒に生み出せる自由な発想を持った外部イノベーターと企業の枠を取り払い、一つのチームとして継続的な仕組みとして取組みたいと思っています。

大村さん（以降、大村）

豊洲のスマートシティの推進と全国展開を担当するなかで、いくつかのベンチャー企業の方々とやり取りさせていただいておりますが、自分たちの組織のみだと議論が狭まってしまうのが課題となっています。

今回はさまざまな部署・事業部から集まったチームですので、部門横断的なつながりによる広い視野で意見を交わし、外部イノベーターの方々も加わることで、これまでにない提案を積極的にしていけたらと考えています。

また、スマートシティではエネルギーや交通、防災、観光等と多岐にわたる分野を扱っていますが、今回の取組みは、分野の垣根を越えた課題を突破するポテンシャルがあるはずですので、ハードとソフトの両面でアイデアを募集できればと考えています。

荻原さん（以降、荻原）

私は不動産開発の部署に所属しておりますが、コロナ禍の影響で世の中の働き方が大きく変わっている中で、オフィスや物流施設等の賃貸物件に求められるスペックも急激に変化していると感じています。それらのニーズにスピード感を持って的確に対応するため、スタートアップ企業の方々と協業し、知見を取り込むことでリーシングへの訴求力を高めなければと考えています。

栩木さん（以降、栩木）

投資開発本部では賃貸事業を手掛けており、ご入居頂いているテナント様に喜んでいただけるサービスや技術だけのみならず、賃貸物件を管理運営しているグループ会社にも新しい風を吹き込んでいける意気込みのある方々と共に不動産 DX に取り組んでいきたいです。社外の方々と共に新しい取り組みを行うというのはイノベーションを目指す当社にとって必要なことだと考えており、様々な技術を持ち、マインドの高い方々と出会えるのを期待しております。

是非皆様アイデア溢れるご応募をお待ちしております。